

公務が地域に果たす役割

KN大学：法学部・法学科・3年

期間：令和2年8月11日～17日（5日間）

私は大学で地域行政について学ぶ機会があり、そこで地域に関わる仕事がしたいと考えたために、今回市役所でのインターンシップに参加させていただきました。公務員の仕事は住民の生活にとって欠かせない一方で、実際の公務内容について想像がつかない部分もありました。そこで今回のインターンシップでは、公務内容を理解すると同時に、その重要性に改めて気づくことができました。

Y市は私が生まれ育った場所なので、大体のことは知っているという感覚で今回のインターンシップに臨みましたが、文化財保護業務を通して、今まで知らなかった歴史や魅力を知ることができました。自分が働きたいその土地のことを深く理解することで、より地域行政を活性化することにつながると考えます。Y市には古くから大切にされてきた古墳や白壁の街並みなど、多くの観光名所が存在する一方で、全国にその魅力が伝わっていないために観光客数も伸びず、新しく経営を始めることが困難であるという課題を知りました。そこで私が将来、市役所で働くにあたっては、市の観光名所の全国への発信に努め、全国から足を運んでもらえるように整備することで、Y市で新しく事業を起こしたいと考える企業の方を支援したいと考えます。また、その方たちとともにY市を活性化したいといった、将来の公務員としての自身のあるべき姿を確立する機会となりました。

政策企画課では国勢調査に関する業務に関わらせていただきました。国勢調査自体の存在は知っていましたが、何に対して役に立つのか具体的に考えたことがありませんでした。国勢調査はその地域の現在の状況を把握することで、住民が望む地域環境を整えるなど、住民の意見を反映した公共施策を設置するだけでなく、人口数により防災施設を整えるべき場所を明確にするなど、住民の暮らしやすさや安心安全を確保するために重要であることを学びました。特にY市は若者減少による過疎化が進む傾向にあるため、その実態を早めに知ることで、迅速な対応を期待できるのではないかと、Y市における国勢調査の役割について考え、国勢調査は公務として地域行政を実現するうえで欠かせない業務であると感じました。しかし、国勢調査についてはまだ住民の理解が十分ではなく、全住民の協力が期待できない状況にあります。そこで政策企画課では、住民の協力を促すための取り組みを学び、実際にその仕事に関わらせていただきました。住民の協力があつてこそ国勢調査は意味あるものとなるため、住民の協力を促すことは公務の重要な役割であり、住民にとってより良き生活環境の保持と改善に密接に関係していると考え、公務の重要性を改めて感じました。

都市計画建築課では、公務員が率先して住民へのサービスを提供するためには、まず確固とした計画を作成し、この都市計画を基軸として市営の建物等、住民のための施設を施すことを学びました。公務においては、法令に基づいた厳格な規律や、そこから導く計画を確定することで、柔軟な行政を実現することができると思います。この法令による確固とした行政展開が住民の生活にとって欠かせず、これを果たすことが公務員の役割であると感じました。このことから、私が大学で学んでいる法律が公務にとっては必要であり、公務員は学んできた知識を将来生かせる職業であると考え、公務員という目標をさらに固める貴重な経験となりました。

市役所から見たH市だからこそ今回私が学べた事

O 大学：外国語学部・外国語学科・3年
期間：令和元年9月2日～6日（5日間）

私は昨年初めてH市を観光で訪れ、そこでH市の景観政策と焼き物に興味を持ち、今回H市役所の都市計画課と商工振興課でインターンシップに参加させていただきました。まず配属された都市計画課では、景観と都市計画を中心に、H市の現在の都市計画・景観形成基準等を学んだり、H市内で新たに建設された建物の看板の色がきちんとH市の景観形成基準を満たしているか実際に街に出て調査したり、基準内の彩色が使われているか機械で見たりしました。私は、初めて「伝統的建造物群保存地区（以下 伝建地区）」の事を知りました。さらにH市には4つの伝建地区があるということで、実際にその場所で説明をしていただきました。私が今回都市計画課で印象に残ったのが、職員の方の伝建地区の整備に関する対応です。伝建地区の整備においては、市役所職員が実際に住民と話して整備を促進したり、住民の疑問点を解消したり、整備に賛同してくれない住民の方に対しても、何度も説明して賛同してもらわなければなりません。そこでの伝建地区の整備の仕方・住民の方との話しあいでも、規則だからと納得してもらおうのではなく、実際に他府県の伝建地区を訪れて、肌で感じて、学んだその地区の成功例を伝え、納得してもらおうことで、景観政策がよい方向に向くとおっしゃっていたことが非常に勉強になりました。今まで景観に対する住民の方との話し合いや整備は、市が作成した景観形成基準を当てはめれば、全て解決すると思っていたので、すごく勉強になったのと同時に伝建地区に興味を持ちました。早速インターン終了後に近隣の都道府県の伝建地区を訪れ、その地域の特徴や建物の特徴、また伝建地区に指定された背景を勉強しに行ったので、これからも多くの伝建地区をまわり、今回学んだ景観と伝建地区について勉強していきたいと思います。

また商工振興課でも、様々な業務を体験させていただきました。私が一番印象に残っているのは、道の駅の視察です。実際にH市にある道の駅の視察に同行させていただき、改善点や気になった点などを考えたりしました。道の駅自体が地域の方々のスーパーになったりしているので、普段使いにも対応しながら、どのように改善していくかを考えるのが難しかったです。また普段の業務の合間に職員の方が企画書のプリントをくださり、H市の活性化の為に様々なアイデアを練ることが出来たので、考えることが好きな私としては、すごくやりがいがあり、楽しかったです。またH市は現在IT系の会社を誘致しているので、実際に他の都道府県からH市に来られたIT系の会社で働く方々と交流するのも刺激になりました。もともと興味があったH焼作りを体験や豆知識を教えていただいたのも貴重な経験です。商工振興課でも、都市計画課の景観関連で学んだことと被りますが、やはり他府県の地域活性の事例や商工振興の事例を知ることは非常に大切だと思いました。ここについても以後自分でリサーチしていきたいです。

私は2回目のH市で市役所にインターンシップに行かせていただきましたが、一回目に観光で来た時に見たH市とは違い、今回のインターンシップで市役所から見るH市を体験させていただいたのは、貴重な経験となりました。またH市役所には他の県よりも絶対自分の街を良くしたい、元気にしたいという方が多いと感じました。出勤前や昼にH市の史跡を巡るのも楽しみでした。これからはどうすればH市を活性化できるか考え、またぜひH市に戻りたいと思います！

市民のために

M大学：経済学部・経済学科・2年

期間：平成30年8月20～24日（5日間）

私は、地元である長門市が大好きです。その思いは、大学進学を機に地元を離れてから更に大きくなりました。長門市の魅力はたくさんありますが、何より一番の魅力は人の温かさだと思います。住んでいた頃は特に感じなかったのですが、地元を離れて初めて長門市っていいところだな、温かいな、と気づかされました。それで、大学卒業後は長門市に帰ってきて、長門市のためになる仕事をしたいと考えるようになりました。そして今回、夏休みを利用してNのインターンシップに参加させていただきました。

インターンシップに行くまでの私の市役所のイメージは、「ザ・デスクワーク」でした。しかし、この5日間でそのイメージが覆りました。一口に市役所で働く、といっても多くの部署があって、その部署によって全く違った仕事をしているのだということ、デスクワークはもちろんですが市民の皆さんと直接お話をすることや、外に出た活動もあるのだということを知りました。

5日間のインターンシップでは、本当に様々な業務に携わらせていただきました。デイサービスにお邪魔して利用者の方々と接したり、予算や監査、選挙について教えていただいたり、俵山ラグビー場の施設やセンザキッチンの見学、さらに美祢線の利用促進についての話し合いをしたりしました。

様々な経験をさせていただいた中で、特に私が印象に残ったことは2つあります。1つは、地域おこし協力隊の方のお話を聞き、実際に活動している現場を見させていただいたことです。その方はジビエ肉を専門としてハンターをされている方で、自分がジビエ活動をすることが少しでも長門市の役に立てばいいとおっしゃっていました。市役所の方が一生懸命市のために奮闘するのは当然のことかもしれませんが、市民の方がそれに受け身にならずに自ら行動しておられることに驚き、素晴らしいと思いました。市民と市役所職員の双方が協力して、より良い街づくりができるのだと学ぶことができました。

もう1つは、山陽小野田市と美祢市との三市合同で美祢線の利用促進の話し合いをしたことです。周りの観光スポットをピックアップしてそこに目を向けさせることはできるのですが、その交通手段に美祢線を使ってもらうのは容易ではなく、様々な案を出し合いました。大学のゼミ活動で同級生とディスカッションはしたことがありますが、大人の方々と話したことがなかったですし、また違った視点からの意見も聞けたので、知識が増えたのと同時に自分の視野を広げることができました。

この5日間を通して、さらに長門市役所で働きたいと思うようになりました。試験まであと2年ほどですが、それまで多くの経験と学力を身に付け、一皮も二皮も向けて長門市に帰ってきます。頑張ります。

これからの自分に必要なこと

N大学大学院：生活工学共同専攻・1年

期間：平成29年8月21日～25日（5日間）

わたしは、ゼミの活動で古民家の再生や、地域に入り調査研究を行なっていました。現在技術の進歩により都市開発が進み、町の「地域らしさ」が希薄しているように思います。古民家のような歴史的な建造物等の資源は、その地域の風土に合わせた生活から建築されたものであり、「地域らしさ」を伺える重要なものだと思います。そのような歴史的資源をうまく生かしたまちづくりに関わる仕事がしたいと、活動を通じて思うようになりました。実際、調査研究を行う際に市役所の方と関わる機会がありましたが、どのような仕事をしているのか疑問でした。そこで今回、歴史的資源を生かしたまちづくりが行われている萩市のインターンシップを希望しました。

インターンシップの最初の3日間は、フィールドワークを通して萩のまちを教えていただくことから始まり、歴史的な建造物を活用したアート盆栽教室の見学、ジオパーク活動の見学、萩の地域らしさを作り出すおたからをめぐる「おたからマップ」を作成するために地区ごとで行われる協議に参加させていただきました。最後の2日間は萩市江向地区のまちあるきのプランを実際に自分で作成し発表を行い、フィードバックしていただきました。

インターンシップを通して、まず、まちづくりには様々な人が関わっていることを知りました。市役所の職員の方だけでなく、NPO団体の方や、地区ごとの保存会の方、学芸員の方など、様々な立場の人が関わって事業が進められていることを知り、とても驚きました。他の仕事でも人とコミュニケーションをとることはとても重要だと思いますが、様々な立場の人と関わるまちづくりの現場ではさらに重要であると感じました。インターンシップ中も様々な方と話す機会がありましたが初対面で緊張してうまく話すことができない場面や、受け身なため自分からあまり話すことができない場面、自分のコミュニケーション能力の低さを痛感しました。初対面の人と話す機会があれば積極的に話をするように心がけたいと思います。最後2日間のまちあるきプラン作成では、文献を読み、実際にまちにでて散策しながらプランを作成し、それを推進課の方やNPOの方に発表して、ご意見をいただきました。まちあるきのプランを作成しながら、そのまちのことを知ることと同時に、そこに住む人たちは何を観光客に紹介したいか、何を知ってもらいたいか、ということも大事だということに気づきました。私の発表に対して、プランを考える上では物語をもって行う必要があることや、観光客目線で考える必要があることをご指摘いただきました。まちあるきプランの作成では、そこに住む人たちの目線と観光客目線の両方が必要であると思いました。これはまちあるきプランに限らずこれから先、就職した際に持っておきたい視点だと思います。

5日間という短い間でしたが、実際にインターンシップを体験しなければ経験できないこと様々なことを得ることができ、勉強になりました。実際に一週間まちじゅう博物館推進課でお世話になり、人との関わりや、市民と観光客双方の立場に立って考えることの重要性を強く感じました。そのためには視野は広く持ち、違う分野、違う考え方ともっと積極的に関わる必要があると思いました。お忙しい中、関わっていただいたすべての皆さん、5日間本当にありがとうございました。

教育行政の仕事内容を知って

KS大学：文学部・3年

期間：平成28年9月12日～16日（5日間）

地元の山口県で教育に携わる仕事がしたいと思い、山口県庁教育庁で5日間のインターンシップをさせていただいた。最初の2日間は教育政策課、残りの3日間は学校安全・体育課で仕事内容について説明を受けたり様々な現場を訪問したりして、教育行政がどのような仕事であるのかを具体的に知ることができた。

中でも、教育企画班のNPOカタリバに委託した事業が印象に残った。新たな企画を作る仕事が公務員にもあるということが新鮮で、実際に高校で見た生徒の真剣な顔を見ると、とても良い企画だと思った。山口県内の大学生と連携を図っていく取り組みであり、将来の山口県内就職・定住にも繋がる可能性もあると思われる。また、教育企画班では、姉妹都市である慶尚南道との国際交流の事業も行っていると知り、非常に興味を持った。自分が大学で朝鮮史学を専攻し、韓国語や韓国の文化についても学んでいるため、そういった国際交流に貢献する仕事が魅力的だと思った。他にも、農業高校で学校事務の予算ややりがいについての話を聞いたり、特別支援学校で様々な配慮をされた施設を見たり校長先生から説明を受けたりしたことも学びが大きかった。学校事務も興味を持っていた職の一つだったので、そのような職を30年間もずっと続けておられる事務の先生から貴重な話を聞くことができてありがたかった。特別支援学校の校長先生は子どもたちの笑顔から学ばされることが多いとおっしゃっていて、現場で生徒と関わり合う教員という職業の魅力も改めて感じた。また、学校安全・体育課では、教員が20名、行政が6名で教員と行政が協力して一つ一つの教育行政を担っていることがわかり、教員でも教育行政に携われることが興味深いと思った。現在、私は中学社会・高校地歴公民の免許取得を目指しているのでも、教員の仕事の一つとして現場以外での仕事もあることを知ることでも、教員の仕事についての視野が広がって良かったと思う。学校体育班では、地元である光市の母校を訪れる機会があったり、小学校の恩師の活躍されている姿を拝見したりして、山口県で働くことの魅力を強く感じた。地域や家庭との連携を図るコミュニティスクール等は、地域の結びつきが強い山口県だからこそ、推進していくことのできる特色ある取り組みだと思った。

私は、今回のインターンシップで、職員の方々や学校現場の教職員の方々の仕事を間近で見ることができ、県民の血税を使って教育政策を行う教育行政も、生徒に直接に大きな影響を与える教員も、重い責任があり、児童・生徒の笑顔・元気のために精一杯働いておられることを実感した。公務員であっても、時期や担当内容によって残業が多い部署もあり、忙しそうであったが、それでも仕事を続けるエネルギーになっているのが、県民のため、児童・生徒のために働こうという強い思いだと感じた。教育企画班の方が、公務員は災害などが起きたときに、いち早く駆けつけることができる仕事だとおっしゃっていて、人々の幸せのために働く魅力ある仕事だなと心から思った。将来教員になるか、教育行政に関わるかという具体的な夢はまだ模索中であるが、今回学んだことを参考にしながら自分の将来に真剣に向き合い、夢の実現に向かって努力していきたいと思う。そして、生まれ育った山口の地に何らかの形で貢献できる人へと成長していきたい。